

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 2 区分
 【発行日】平成30年2月22日(2018.2.22)

【公開番号】特開2016-129906(P2016-129906A)
 【公開日】平成28年7月21日(2016.7.21)
 【年通号数】公開・登録公報2016-043
 【出願番号】特願2015-204189(P2015-204189)
 【国際特許分類】

B 3 0 B 1/26 (2006.01)

【F I】

B 3 0 B 1/26 F

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月9日(2018.1.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

同軸的に位置する二つの主軸部と、それら二つの主軸部間において、該主軸部に対して偏心して位置する偏心軸部とを有するクランクシャフトの複数が、それぞれ、その軸方向が互いに平行な状態で所定の間隔を隔てて該二つの主軸部においてフレームに回転可能に支持されると共に、それらクランクシャフトの対応する一方の主軸部がそれぞれ該フレームから外方に突出せしめられ、該主軸部の中心軸を回転中心とする該クランクシャフトの回転に基づく該偏心軸部の変位によって、一端部が該偏心軸部に連結されたコネクションロッドの他端部側に連結されたスライドを往復駆動するプレス機であって、

前記複数のクランクシャフトのうちの一つに入力される回転駆動力を、他のクランクシャフトに伝達して、それら複数のクランクシャフトを互いに同期して回転せしめるための第一の連結レバーが、前記偏心軸部のそれぞれに対して取り付けられている一方、

前記複数のクランクシャフトの前記二つの主軸部のうちの一方における前記フレームから外方に突出せしめられた一端部に、それぞれ、前記主軸部の軸方向に直角な方向に延出する偏心レバーが設けられ、更にそれら偏心レバーに対して、該主軸部に対する前記偏心軸部とは異なる周方向位置において、該主軸部の軸方向と平行な方向に突出し、且つその突出方向の端部が該クランクシャフトの一端部よりも外方に位置するピンが、前記偏心軸部よりも小なる径において、それぞれ設けられると共に、それらピンの突出方向の端部に対して、第二の連結レバーがそれぞれ取り付けられて、かかる第一及び第二の連結レバーの協働作用によって、前記回転駆動力が前記他のクランクシャフトに円滑に伝達せしめられるようになっていることを特徴とするプレス機。

【請求項 2】

前記スライドが平面視において長手の矩形形状を呈しており、前記複数のクランクシャフトが、それらの軸方向が該スライドの長手方向に対して直角な方向となるようにして、該スライドの長手方向に互いに間隔を隔てて配置されている請求項 1 に記載のプレス機。

【請求項 3】

前記偏心軸部が、軸方向中央部を構成する大径部と、それを挟むようにして軸方向両端部を構成する小径部と、それら大径部と小径部との間に一体的に形成された仕切板部とから構成され、該大径部に対して前記コネクションロッドが連結されている一方、前記小径部に対して前記第一の連結レバーが取り付けられている請求項 1 又は請求項 2 に記載のプ

レス機。

【請求項 4】

前記主軸部の中心軸に対する前記ピンの中心軸の偏心量が、該主軸部の中心軸に対する前記偏心軸部の中心軸の偏心量よりも大きくされている請求項 1 乃至請求項 3 の何れか 1 項に記載のプレス機。

【請求項 5】

前記第一の連結レバーが複数設けられており、それら複数の第一の連結レバーのそれぞれによって、互いに隣り合う前記クランクシャフトの前記偏心軸部同士が連結されていると共に、該複数の第一の連結レバーが、前記コネクションロッドの一端部が連結されている部位を挟んで、それぞれ、該偏心軸部の軸方向において互い違いになるように配設されている請求項 1 乃至請求項 4 の何れか 1 項に記載のプレス機。